

Go-Ahead 2

<https://toyono-jinjikyo.com/>

令和 2 年度 (2020 年度)
子ども主体の授業づくり①
(中堅教諭等資質向上研修)

第 2 回の 10 年経験者研修も新型コロナウイルスの影響で動画配信による研修となりました。前半は、「授業改善・校内研究の推進」をテーマに独立行政法人教職員支援機構 (NITS) のオンライン講座・校内研修シリーズの中から國學院大学の田村学教授の『主体的・対話的で深い学び』を見取り、実現する校内研修」の動画を視聴しました。次に、豊能地区における授業改善や校内研修の推進の様々な取り組みを学びました。後半は、今後ミドルリーダーとして経験の浅い教職員に指導・助言をする機会がより増えるということを見据え、人材育成の手法であるメンタリングやコーチングについて学びました。

～ 振り返りシートより ～

これまで様々な研究授業を行ったり、参観したりする機会がありましたが、今回の研修を受けて授業研究を行う際の考え方が少し変わりました。今までは授業者の発問や板書の仕方など、授業者の力量を中心にみるが多かったのですが、大切なのはそれが子どもたち一人ひとりにどのような影響を及ぼし、どのような学びが実現されているかということであるため、子どもたちの学びを見取ることこそが大切だということが分かりました。今後の研究授業では授業の記録を書き残し、子どもたちの表情の変化を見ながら子どもの姿をもとにして授業を検証していきたいと思いません。

今回の研修を受けて新学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」を実現するためには、研究授業などの授業を見る視点を変えなければいけないということに気づきました。今までは「先生のあの手立てが良かった」「先生の板書が分かりやすかった」などと先生に視点を置いて参観していましたが、これからは「あの子がこんな発言をしていた」、「あの子の意見が授業の始めと最後でこのように変わった」などと子どもの様子や変化に重きを置いて参観していこうと思いました。自分の授業を自分で振り返る際にも、「今日の子どもたちの学びに向かう姿勢はどうだったか」や「子どもがこんな発言をしていた」など、子どもがどんな様子であったかに視点を置いてみようと思いました。視点を変えることでこれまでと違うことに気づけそうな気がしてとても良い学びになりました。明日からすぐ実践してみます。

池田市の小学校の実践で「自分たちが学校をつくっている」、「こんなことをしてみたい」という子どもの主体性の高まりを意識して取り組まれていることはすばらしいと感じました。また、ミドルリーダーが中心となり、難しいことを一部の人がやるのではなく、簡単なことから全員でやっていくことで、どの先生が担任になっても子どもたちも安心して次の学年に進めると感じました。

授業改善の具体的な事例として挙げられた箕面市の校内研究の実践がとても興味深かった。特に子どもたちの反応の違いが明らかであったことで、改めて授業づくりの大切さを学ぶと同時に学校全体で授業改善を進めていくためにはどのようにすればよいのかとヒントをいただいた気がする。経験年数の浅い教員と他の教員とをつなぐ役割が私たち 10 年目の教員の役割でもあるのだと感じ、自校ではどのように取り組んでいけるのかと考えた。積極的に職員全体が関わり合えるような場を設定し、中心となって進めていこうと思う。

10 年という期間で先輩もたくさんできたが、「相手の話をよく聴くスキル」、「相手を認めるスキル」、「相手から答えを引き出すスキル」というコーチングの三つのスキルに気をつけて話をしよう意識したことがなかった。ただ、これらはメンティとの関係だけでなく、保護者や子どもとの関係を築くうえでも必要になってくるスキルのように感じた。保護者との電話応対の際に相手の言いたいことを最後まで聞く。子どもから話を聞きだす時、うなずき、あいづちを繰り返す。日常的にしているものもあるが、教員として成長していくため、そして、ミドルリーダーの役割を担うため、もう一度、日常の会話や過ごし方などを考えていきたいと思う。

今回の研修で学んだことを自分ならどう使うか、自校にどう活かすかということ振り返りシートに書かれている方が非常に多くいらっしゃいました。「ミドルリーダーとして学校を引っ張っていく」という強い意気込みを感じました。

～お知らせ～

選択研修の受講は、計画どおりに進んでいますか？まだの方は、この機会に早めに計画の見直しと変更をしておきましょう。受講後の報告書の作成も忘れずお願いします。